

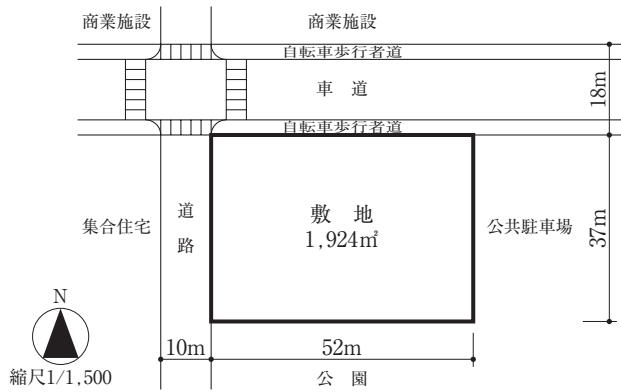
設計課題 子ども・子育て支援センター（保育所、児童館・子育て支援施設）

I. 設計条件

この課題は、ある地方都市の市街地において、児童を預り、保育することを目的とする「保育所部門」と児童に健全な遊びを提供し、健全育成活動を行う「児童館部門」とからなる地域の子育て支援の拠点となる施設を計画するものである。
 「児童館部門」は、本来の機能に加え、地域と連携して、子育てに関する情報提供や相談等を行うとともに、地域の親子が集う交流の場及び乳児から小学校低学年までの児童の遊び場を提供する子育て支援を行うものとする。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- 敷地は、第一種住居地域及び準防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は70%（特定行政庁が指定した角地における加算を含む。）、容積率の限度は300%である。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤は良好である。
- 気候は温暖で、積雪についての特別な配慮はしなくてよい。



2. 建築物

- 構造、階数等
構造種別は自由とし、地下1階、地上3階建の1棟の建築物とする。
- 床面積の合計
地下1階を除く床面積の合計は、2,300㎡以上、2,700㎡以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段、屋外テラス等は、床面積に算入しないものとする。
- 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積	
保育所部門 (1階又は2階)	・保育所の入所定員は50人、受入れ対象は0～5歳児とし、保育士の数は7人とする。 ・裸足又は上履きで利用する計画とする。 ・利用時間は、午前9時から午後7時までとする。			
	受付ホール	・保育所部門の入口とし、共用エントランスホールからアクセスする。 ・下足箱及びベビーカー置場(約10㎡)を設ける。	適宜	
	乳児室	・0歳児(5人程度)を対象とし、沐浴室、調乳室を設ける。	約20㎡	
	ほふく室	・主に1歳児(5人程度)を対象とする	約20㎡	
	保育室	・幼児(2～5歳児)用として年齢ごとに1室(約10人/室)計4室を設ける。 ・屋外遊戯場との動線に配慮した計画とする。	計約160㎡	
	幼児用便所	・幼児用シャワー室を設ける。	適宜	
	遊戯室	・ステージを設ける。	約100㎡	
	調理室		約30㎡	
	保育士室		約20㎡	
	保育所事務室	・受付を設け、保育所部門の運営・管理を行う。 ・男性用及び女性用の更衣スペースを設ける。	約40㎡	
医務室		適宜		
児童館部門 (1階～3階)	・裸足又は上履きで利用する計画とする。 ・利用時間は、午前9時から午後5時までとする。			
	小体育館	・天井高は6m以上とする。 ・子どもが運動等を行うスペース(直径10m以上の円が1つ入るスペース。)とする。 ・屋外テラスへ直接行き来できるようにする。	約200㎡	
	小体育館専用倉庫	・小体育館に隣接させる。	約20㎡	
	プレイルーム	・乳幼児から小学校低学年の児童の遊び場とする。 ・一時託児室(約20㎡)及び授乳室を設ける。	約120㎡	
	育児相談室	・2室を設ける。	適宜	
	図書室	・書架、受付カウンター及び閲覧コーナーを設ける。	約120㎡	
	情報検索室	・インターネットを利用して、各種情報を検索するためのPC端末スペースを15席設ける。	適宜	
	集会室	・サークル活動、各種講義、上映会等に利用する。 ・可動間仕切りにより3室に分割して個別に利用できるようにする。	計約120㎡	
	音楽スタジオA・B	・2室を設ける。 ・前室を設け、防音に配慮する。	計約80㎡	
	工作室	・準備室を含む。	約80㎡	
	ラウンジ		適宜	
	和室	・12畳とし、茶道教室・華道教室等に利用する。		
	スタッフルーム	・職員、指導員、ボランティアなどが使用する。	約30㎡	
管理事務室	・5人分の事務スペースを確保する。 ・受付を設け、入館者の管理や施設全体の管理を行う。	適宜		
職員休憩室	・男女共用とする。			
共用部門	エントランスホール	・風除室を設ける。 ・保育所部門と児童館部門との共用とする。午後5時以降は、児童館部門に入れないように計画する。		
	喫茶室	・20席程度のカウンター、テーブル等を設ける。 ・外部からも直接利用できるようにする。	適宜	
	設備スペース(設置階は適宜)	・地下1階に設けてもよい。 ・採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、給排水衛生、電気、消火等)、屋外機器置場等を計画する。		
・便所、倉庫及びゴミ置場については、適切に計画する。 ・その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。				

3. その他の施設等

- 屋外遊戯場(保育所の幼児の遊び場をいう)は、次のとおり計画する。
 - 屋外遊戯場は、地上に設けるものとし、まとまったスペース(直径7mの円が1つ以上入るスペースとする。)で200㎡以上(ピロティの部分及び上部に屋根、ひさし等がある部分は算入しない。)とする。
 - 敷地内において、屋外遊戯場から公園へアプローチできるようにする。
 - 砂場、ぶらんこ、鉄棒、足洗場、公園側の門扉、その他を設置する。
- 屋上テラスを、次のとおり計画する。
 - 1階又は2階の屋上に設けるものとし、まとまったスペースで約100㎡を確保する。
 - 子どもの屋外運動スペースとして、小体育館と一体的に利用できるようにする。
- 敷地内の駐車場は、地上に平面駐車とし車椅子使用者用として1台分、サービス用として2台分のスペースを設ける。また、来館者用及び職員用の駐車場については、近隣の公共駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
- 敷地内の駐輪場は、利用者用として30台分を設ける。
- (1)～(4)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4. 計画に当たっての留意事項

- 建築計画については、次の点に留意して計画する。
 - 敷地の周辺環境に配慮する。
 - 建築物はバリアフリー、セキュリティ等に配慮する。
 - 保育所部門、児童館部門及び共用部門を適切にゾーニングし、明快な動線計画とともに、災害時の避難等に配慮する。
 - パッシブデザインを積極的に取り入れ、採光、通風及び日射の遮蔽に配慮する。
- 構造計画については、次の点に留意して計画する。
 - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性に配慮する。
 - 耐震性に配慮した基礎構造を採用し、構造種別、架構形式及びスパン割りを適切に計画する。
 - 部材の断面寸法を適切に計画する。
 - 天井等の落下防止対策について適切に計画する。
- 設備計画については、次の点に留意して計画する。
 - 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消火設備等を適切に設けるとともに、環境負荷低減に配慮する。
 - エレベーターを適切に設ける。

II. 要求図書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい)、必要な事項を記入する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図兼配置図 1/200	① 各平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(スパン割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 室名等 ハ. 要求室の床面積 ニ. 採用した構造種別、架構形式及びスパン割りに応じて必要となる構造要素 ホ. 設備シャフト(パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS))の位置 ヘ. 設備計画に応じた設備スペース ト. 断面図の切断位置 チ. 要求室の特記事項に記載されている什器等 ② 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口 ロ. 地下1階部分(地下1階に設備機械室を設ける場合は、位置を図示し、床面積を記入する。) ハ. 屋外遊戯場の面積 ニ. 駐車場及び駐輪場(台数及び出入口を明示する。) ホ. ごみ置場 ヘ. 通路、植栽等
(2) 2階平面図 1/200	
(3) 3階平面図 1/200	③ 2階及び3階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から直通階段の一に至る歩行距離及び経路 ロ. 1階又は2階の屋根、ひさし等となる部分 ハ. 屋上テラスの面積
(4) 断面図 1/200	① 切断位置は、小体育館を含み、建築物の全体の立体構成がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。 ③ 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高並びに1階床高及び主要な室名を記入する。 ④ 基礎、梁及びスラブの断面を図示する。

2. 面積表(答案用紙Ⅰに記入)

地上1～3階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3. 計画の要点等(答案用紙Ⅱに記入)

- 建築計画について、次の①～③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 利用者・スタッフ等のアプローチ及び駐車場等の配置について考慮したこと
 - 保育所部門のセキュリティについて考慮したこと
 - 児童館部門において、利用者・スタッフ等の動線及び要求室の配置について考慮したこと
- 構造計画について、次の①～③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 建築物に設定した目標耐震性能(地震力の程度と建築物の状態)と基礎構造の計画に配慮したこと
 - 上部構造の構造種別、架構形式、スパン割り及び主要な部材の断面寸法について考慮したこと
 - 小体育館の計画において、天井の落下防止の対策について考慮したこと
- 設備計画について、次の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 小体育館において、採用した空調方式、採用した理由及び良好な室内環境とするための吹出口・吸込口の計画について工夫したこと
 - 受変電設備、空調設備の設置位置及び給水方式について工夫したこと
- パッシブデザインを取り入れ、対応した環境負荷低減について、配慮したことを具体的に記述する。なお、断面図等において補足してもよい。